

**令和元年度**

**荒尾市教育振興基本計画  
平成 30 年度分数値目標報告書**

**令和 2 年 6 月**

**荒尾市教育委員会**

## 荒尾市教育振興基本計画数値目標報告書(平成30年度取り組み状況)

### 基本目標①：家庭や地域の絆の中で、「生きる力」の基礎をはぐくむ

#### <総括>

「くまもと親の学び」をはじめ、「荒尾っ子の『できるといいね』」等を活用しつつ、家庭教育の重要性についての啓発と支援に努めた結果、成果指標である「朝食を毎日食べている児童生徒の割合」が増加しました。今後も、基本的な生活習慣を育成できるよう周知啓発などを継続的に取り組んでいきます。

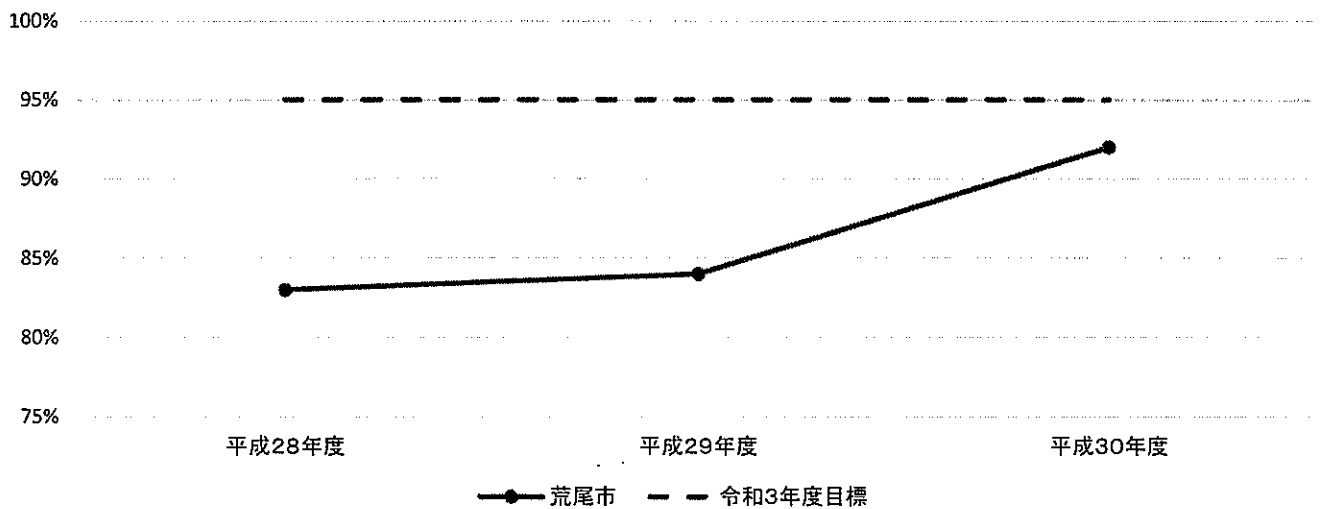
#### <主な取組>

- ・基本的な生活習慣を育成するため、家庭教育支援リーフレット「荒尾っ子のできるといいね」の普及啓発
- ・「早寝早起き朝ごはん」運動の推進
- ・乳幼児期からの読み聞かせに努め、家庭教育に対する理解と充実を図るため「くまもと親の学び」の活用

### 朝食を毎日食べている児童生徒の割合

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
83%	84%	92%	95%

### 朝食を毎日食べている児童生徒の割合



#### <主な課題>

- ・家庭環境など様々な事情により、子どもたちの食生活などの基本的な生活習慣の乱れが、学習意欲の低下、気力低下の要因の一つとなっている。

基本目標②：自ら学び、自ら考え、自ら行動する力をはぐくむ

＜総括＞

・前年度と比較してよくなっている点（水準維持を含む）は、学力学習状況調査の小学校、中学生の英検3級相当の学力の生徒の割合です。課題となるのは、学力学習状況調査の中学校は、前年度に引き続き全国平均を下回っている、「自己肯定感」に関して、前年度（H29）の水準を上回る回答になっているが、全国平均からすると荒尾の児童生徒はやや下回る結果であること、体力に関して、小中学校ともに県平均を上回る項目が微減であることです。よくなっている点については今後もこの水準を維持できるよう努め、課題に関しては、学校による分析と対策の実施について、学校と連携しながら、取り組んでいきます。

＜主な取組＞

- ・「メディアコントロール」の取り組み(インターネット等のメディア使用時間調査・情報モラル教育など)
- ・教職員の指導力の向上を図るための「授業改善アドバイザー」事業の実施
- ・「荒尾市教育ICT整備計画」の策定
- ・中学校の全学年での「英検チャレンジ」実施
- ・市内全中学校3校の普通教室等に空調設備の設置及び市内全小学校10校の空調設備設計委託の実施

全国学力・学習状況調査正答率

平成27年度		平成29年度		平成30年度		令和3年度目標	
小学校	全国平均を上回る	小学校	全国平均を上回る	小学校	全国平均を下回る	小学校	全国平均を上回る
中学校	全国平均を下回る	中学校	全国平均を下回る	中学校	全国平均を下回る	中学校	全国平均を上回る

(参考)平成30年度 全国学力学習状況調査における全国・熊本県・荒尾市の平均正答率

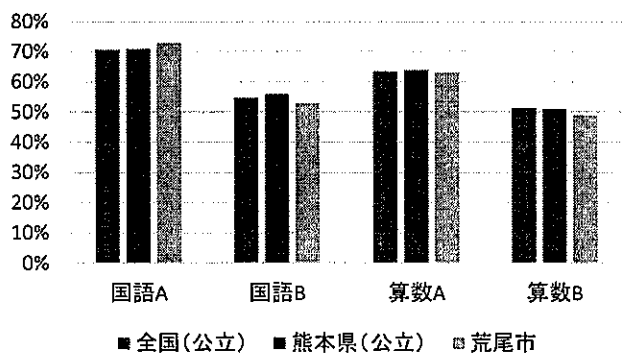
○小学校

	国語A	国語B	算数A	算数B
全国(公立)	70.7%	54.7%	63.5%	51.5%
熊本県(公立)	71.0%	56.0%	64.0%	51.0%
荒尾市	73.0%	53.0%	63.0%	49.0%

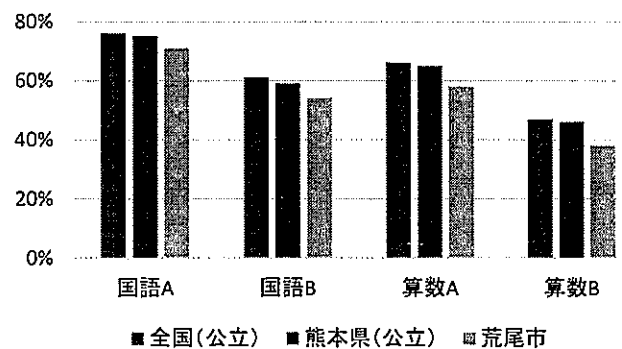
○中学校

	国語A	国語B	数学A	数学B
全国(公立)	76.1%	61.2%	66.1%	46.9%
熊本県(公立)	75.0%	59.0%	65.0%	46.0%
荒尾市	71.0%	54.0%	58.0%	38.0%

平成30年度  
小学校 平均正答率



平成30年度  
中学校 平均正答率



(参考) 令和元年度(平成31年度) 全国学力学習状況調査における全国・熊本県・荒尾市の平均正答率

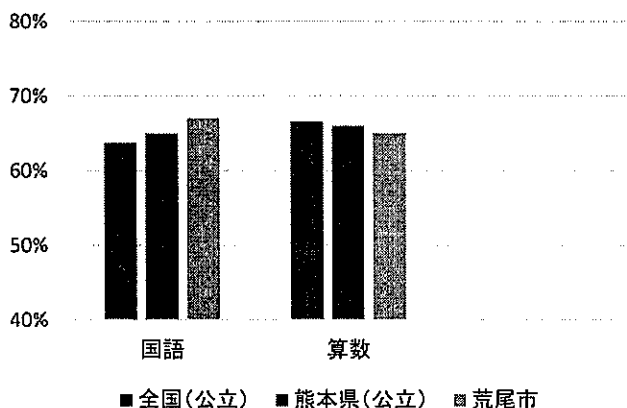
○小学校

	国語	算数
全国(公立)	63.8%	66.6%
熊本県(公立)	65.0%	66.0%
荒尾市	67.0%	65.0%

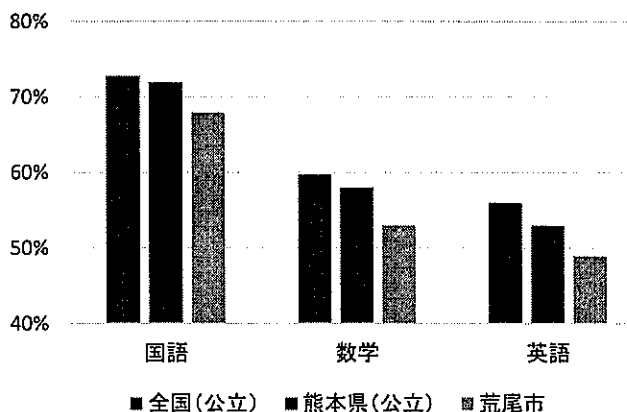
○中学校

	国語	数学	英語
全国(公立)	72.8%	59.8%	56.0%
熊本県(公立)	72.0%	58.0%	53.0%
荒尾市	68.0%	53.0%	49.0%

平成31年度(令和元年度)  
小学校 平均正答率



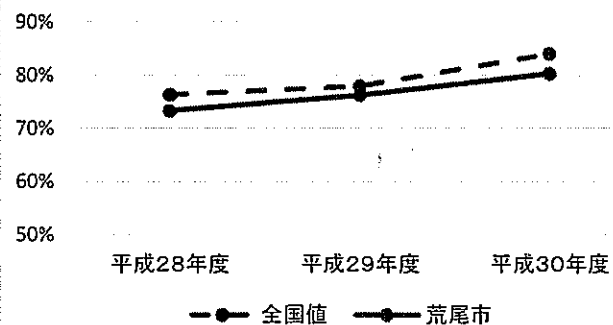
平成31年度(令和元年度)  
中学校 平均正答率



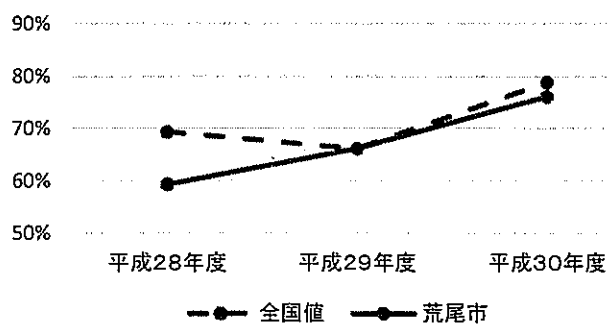
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合

平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和3年度目標	
小学校	73.3%	小学校	76.2%	小学校	80.3%	小学校	全国平均を上回る
	(全国値: 76.3%)		(全国値: 77.9%)		(全国値: 84.0%)		
中学校	59.3%	中学校	66.10%	中学校	76.1%	中学校	全国平均を上回る
	(全国値: 69.3%)		(全国値: 66.1%)		(全国値: 78.8%)		

自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 小学校



自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 中学校

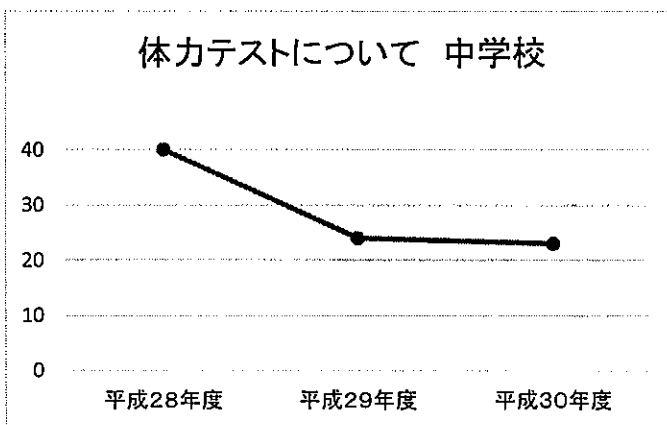
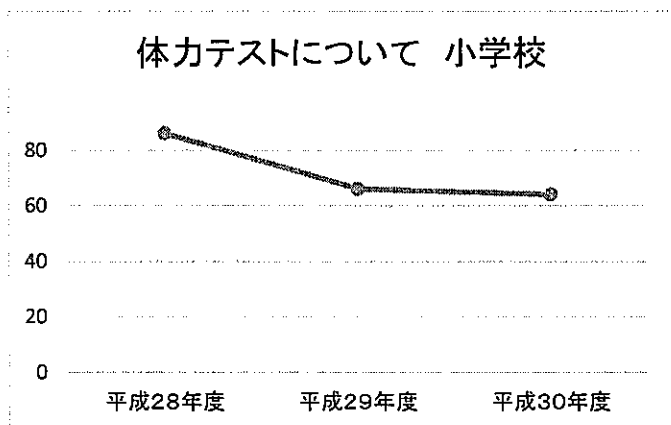


学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合

平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和3年度目標	
小学校	83%	小学校	86%	小学校	データなし	小学校	95%
中学校	81.4%	中学校	75.2%	中学校	データなし	中学校	90%

体力テストについて

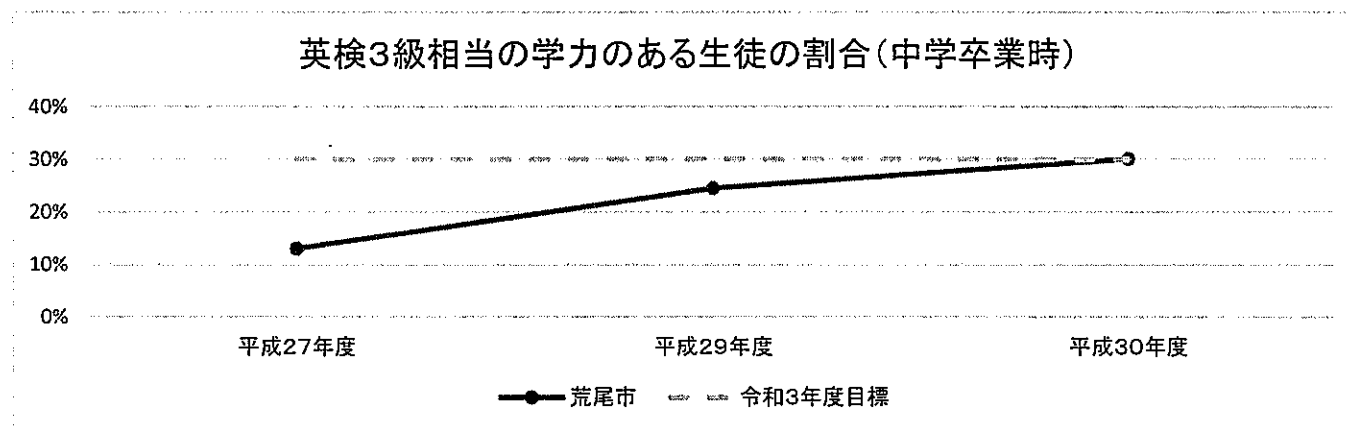
平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和3年度目標	
小学校	86/96項目で 県平均を上回る	小学校	66/96項目で 県平均を上回る	小学校	64/96項目で 県平均を上回る	小学校	全項目で 県平均を上回る
中学校	40/48項目で 県平均を上回る	中学校	24/48項目で 県平均を上回る	中学校	23/48項目で 県平均を上回る	中学校	全項目で 県平均を上回る



英検3級相当の学力のある生徒の割合(中学卒業時)

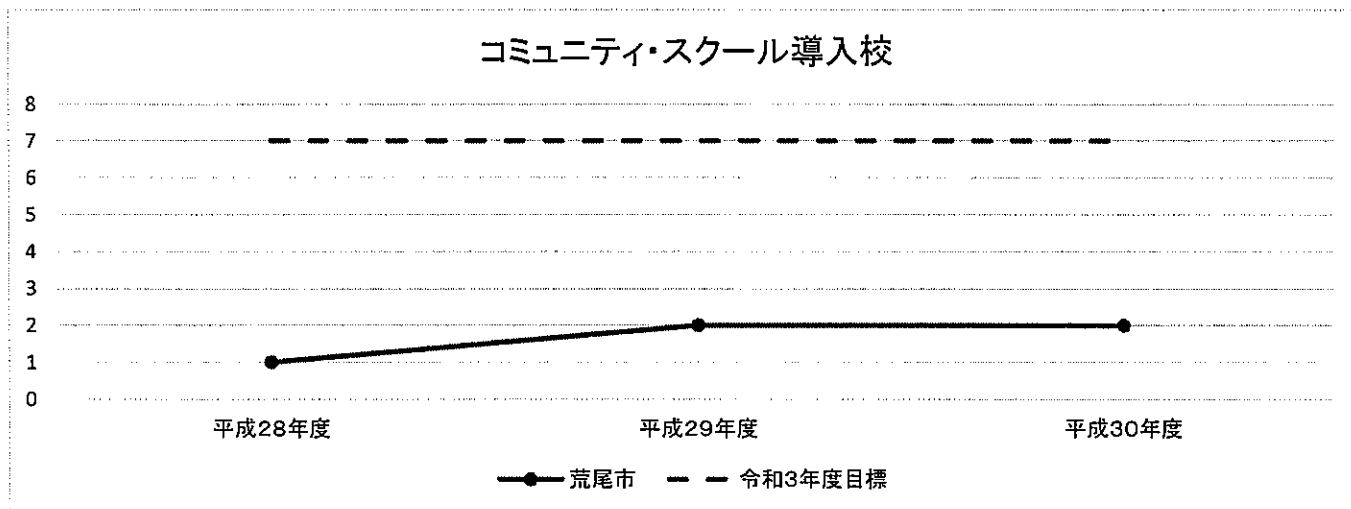
平成27年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
13%	24.5%	30.1%	30.0%

平成29・30年度は、IBAでの数値、令和元年度より、学校アンケート結果



コミュニティ・スクール導入校

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
1校	2校	2校	7校



<主な課題>

- ・メディア使用の時間が、全体的に他自治体と比較して長い傾向があり、特に中学生の3時間以上が20%もある。
- ・宿題・予習・復習を含めて、計画的な家庭学習ができている割合は、全体の6割程度であり、取り組めていない児童生徒も1割いる。
- ・学力向上のためのあらおベーシックの定着と英語力の向上（英語の日常化）

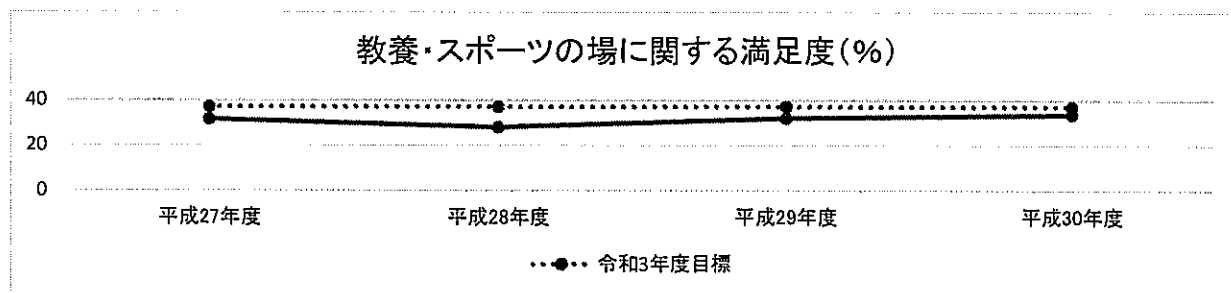
基本目標③：生涯にわたって健やかに学び続ける人をはぐくみ、地域社会における教育力の向上をはかる

<総括>  
 中央公民館・市立図書館・運動公園施設を拠点として、様々な取組を展開していること多くの市民が生涯学習・生涯スポーツ活動に取り組むことができ、教養・スポーツの場に関する満足度については、年々目標に近づいている。  
 また、学校と地域の連携・協働の取組も市内全体に広がっており、多くの地域ボランティアの協力により、年々活動内容が充実している。

<主な取組>  
 ・生涯学習の推進（公民館・図書館を活用した各種サービスの実施、サークル・団体の支援、各種イベントの開催等）  
 ・生涯スポーツの推進（体育施設を活用した大会等の実施、協会・団体の支援、各種イベント・教室の開催等）  
 ・学校、家庭、地域連携の強化（地域学校協働活動、放課後子ども教室、地域未来塾）

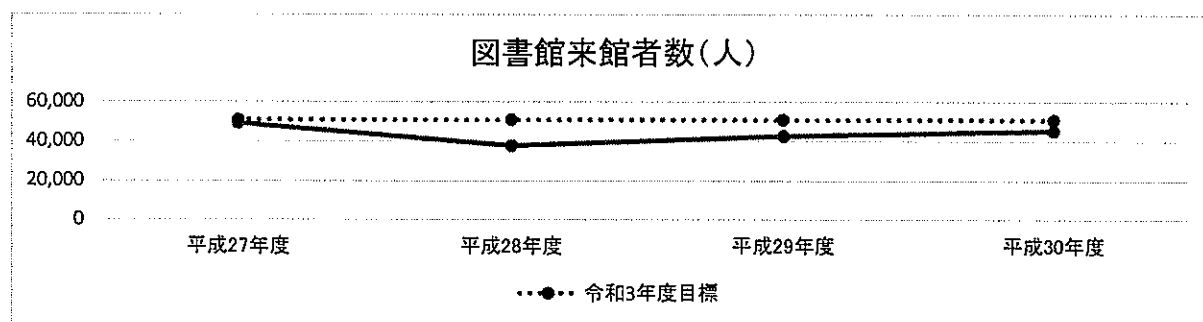
教養・スポーツの場に関する満足度(%)

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
31.5	28	32	33.5	37



図書館の来館者数(人)

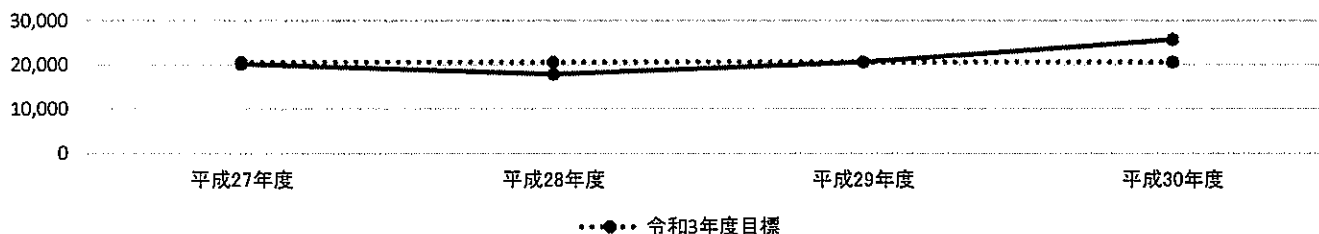
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
49,139	37,568	42,630	45,311	50,830



学校支援ボランティアの数(人)

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
20,194	17,882	20,580	25,667	20,600

学校支援ボランティアの数(人)



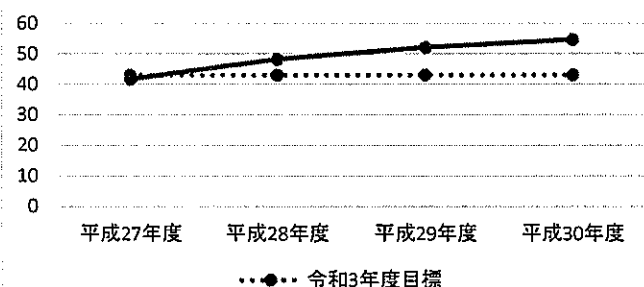
運動習慣のある者の割合(%)

【男性】

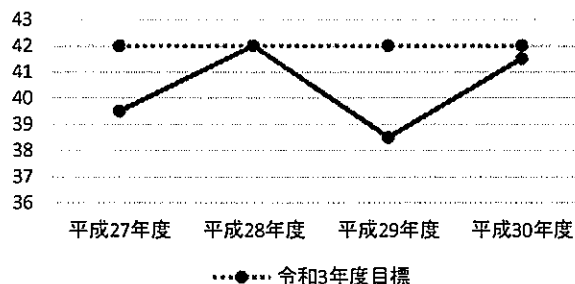
【女性】

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
41.7	48.2	52.1	54.6	43	39.5	42	38.5	41.5	42

運動習慣のある者の割合(%)  
男性



運動習慣のある者の割合(%)  
女性



<主な課題>

- ・生涯学習・スポーツ活動の拠点となる施設の老朽化。
- ・学校、家庭、地域連携の取組拡大に伴い将来を見据えた新たな人材の発掘や育成。
- ・運動習慣の向上に向けた、機会の創出・提供。



基本目標④：ふるさとの自然や伝統、文化を学び、誇りや愛着をもち、文化を通じた国際交流の推進をはかる

<総括>

市史講演会や出前講座等を通して、本市の伝統文化を学ぶ機会を市民に広く周知し、「郷土を愛する心」を育んだ。また平成30年度は次世代を担う子ども達が主体で行う「くまもと子ども芸術祭」を実施し、子どもたちが文化・芸術に触れたことで、本市の文化振興に繋がった。宮崎兄弟を通じた視察や事業等を行うことで、国際交流の推進を行った。

<主な取組>

- ・指定文化財の補修を随時実施している。万田坑に関しては、長期的な整備・補修を計画している。
- ・市史等の講演会や出前講座等の実施。
- ・例年の市民文化祭に加え、昨年度はくまもと子ども芸術祭を実施した。
- ・宮崎兄弟に関する研究をまとめ、その歴史的価値を再評価するための宮崎兄弟研究報告書を発刊した。
- ・NHKと共催で「新・BS日本のうた」を文化センターで開催した。
- ・シンガポール晩晴園と共同報告書発刊について協議を重ねた。
- ・日中友好促進会議の事業として、伊藤伝衛門邸等を視察した。

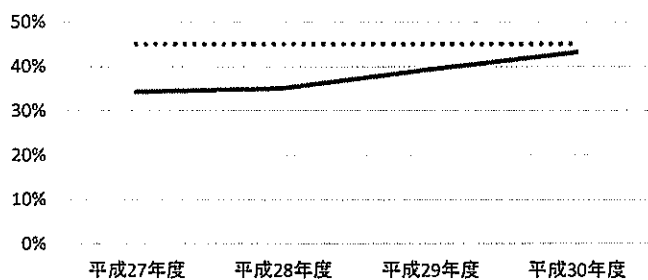
文化的な環境に関する満足度

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
34.2%	35.0%	39.3%	43.1%	45.0%

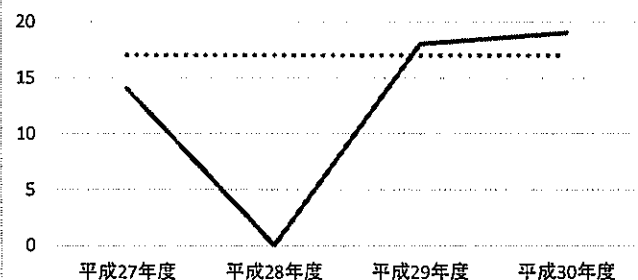
宮崎兄弟の生家施設関連交流件数

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
14件	8件	18件	19件	17件

文化的な環境に関する満足度



宮崎兄弟の生家施設関連交流件数



<主な課題>

- ・文化財保護及び文化団体の高齢化により、後継者不足が危ぶまれる。
- ・市民の国際交流への参加機会を増やすことができるよう、市内の国際交流団体等の意見を踏まえ、次世代を担う子ども達などの交流機会の拡充に向けた取組みの検討を行う必要がある。
- ・本市とシンガポール晩晴園との交流事業について、晩晴園と引き続き協議を重ね、学術交流を主軸とした提携から、多様な交流を視野に入れた国際交流を推進できるよう具体的な協議を行っていく必要がある。

## 教育振興基本計画に基づく平成30年度数値目標報告書に対する概評

事務点検評価委員：嶋 政弘

基本目標①：家庭や地域の絆の中で、「生きる力」の基礎をはぐくむ

### <総括>

「くまもと親の学び」をはじめ、「荒尾っ子の『できるといいね』」等を活用しつつ、家庭教育の重要性についての啓発と支援に努めた結果、成果指標である「朝食を毎日食べている児童生徒の割合」が増加しました。今後も、基本的な生活習慣を育成できるよう周知啓発などを継続的に取り組んでいきます。

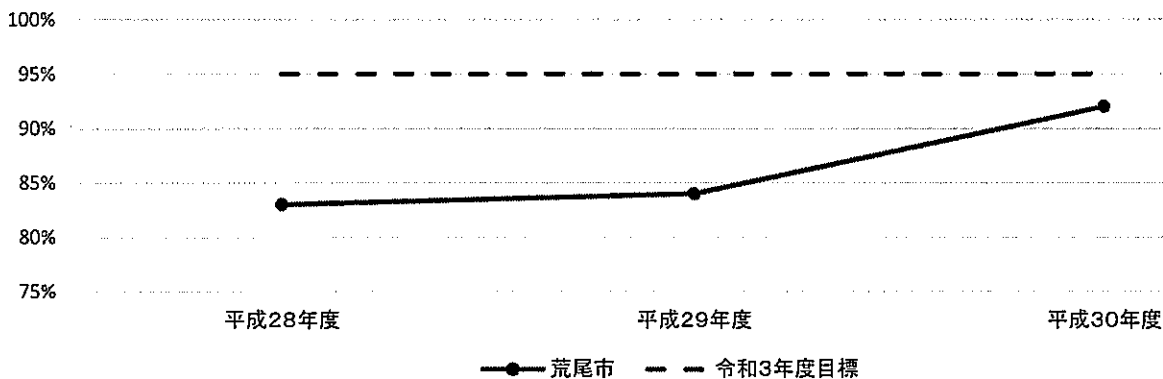
### <主な取組>

- ・基本的な生活習慣を育成するため、家庭教育支援リーフレット「荒尾っ子のできるといいね」の普及啓発
- ・「早寝早起き朝ごはん」運動の推進
- ・乳幼児期からの読み聞かせに努め、家庭教育に対する理解と充実を図るため「くまもと親の学び」の活用

朝食を毎日食べている児童生徒の割合

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
83%	84%	92%	95%

朝食を毎日食べている児童生徒の割合



### <主な課題>

・家庭環境など様々な事情により、子どもたちの食生活などの基本的な生活習慣の乱れが、学習意欲の低下、気力低下の要因の一つとなっている。

### 【概評】

朝食を毎日食べている児童生徒の割合が増えていること自体は評価すべきである。そこで、その原因がどこにあるか（つまり、行政としての取り組みの結果なのか、別のところに要因があるか）を知ることも求められる。したがって、児童生徒への調査の他に保護者等の意識の変容が分かれば取り組みの効果が明確になると思われる。

基本目標②：自ら学び、自ら考え、自ら行動する力をはぐくむ

＜総括＞  
 ・前年度と比較してよくなっている点（水準維持を含む）は、学力学習状況調査の小学校、中学生の英検3級相当の学力の生徒の割合です。課題となるのは、学力学習状況調査の中学校は、前年度に引き続き全国平均を下回っている、「自己肯定感」に関して、前年度（H29）の水準を上回る回答になっているが、全国平均からすると荒尾の児童生徒はやや下回る結果であること、体力に関して、小中学校ともに県平均を上回る項目が微減であることです。よくなっている点については今後もこの水準を維持できるよう努め、課題に関しては、学校による分析と対策の実施について、学校と連携しながら、取り組んでいきます。

＜主な取組＞  
 ・「メディアコントロール」の取り組み（インターネット等のメディア使用時間調査・情報モラル教育など）  
 ・教職員の指導力の向上を図るための「授業改善アドバイザー」事業の実施  
 ・「荒尾市教育ICT整備計画」の策定  
 ・中学校の全学年での「英検チャレンジ」実施  
 ・市内全中学校3校の普通教室等に空調設備の設置及び市内全小学校10校の空調設備設計委託の実施

全国学力・学習状況調査正答率

平成27年度		平成29年度		平成30年度		令和3年度目標	
小学校	全国平均を上回る	小学校	全国平均を上回る	小学校	全国平均を下回る	小学校	全国平均を上回る
中学校	全国平均を下回る	中学校	全国平均を下回る	中学校	全国平均を下回る	中学校	全国平均を上回る

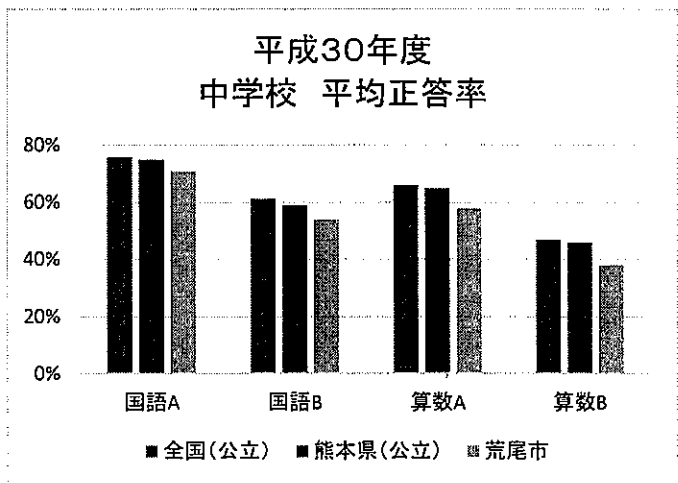
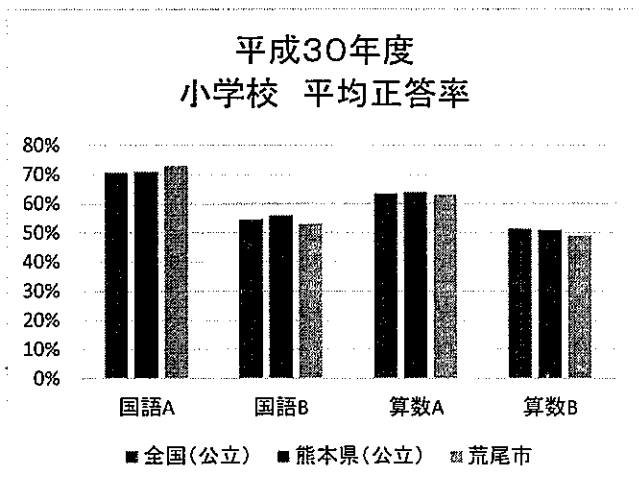
（参考）平成30年度 全国学力学習状況調査における全国・熊本県・荒尾市の平均正答率

○小学校

	国語A	国語B	算数A	算数B
全国(公立)	70.7%	54.7%	63.5%	51.5%
熊本県(公立)	71.0%	56.0%	64.0%	51.0%
荒尾市	73.0%	53.0%	63.0%	49.0%

○中学校

	国語A	国語B	数学A	数学B
全国(公立)	76.1%	61.2%	66.1%	46.9%
熊本県(公立)	75.0%	59.0%	65.0%	46.0%
荒尾市	71.0%	54.0%	58.0%	38.0%



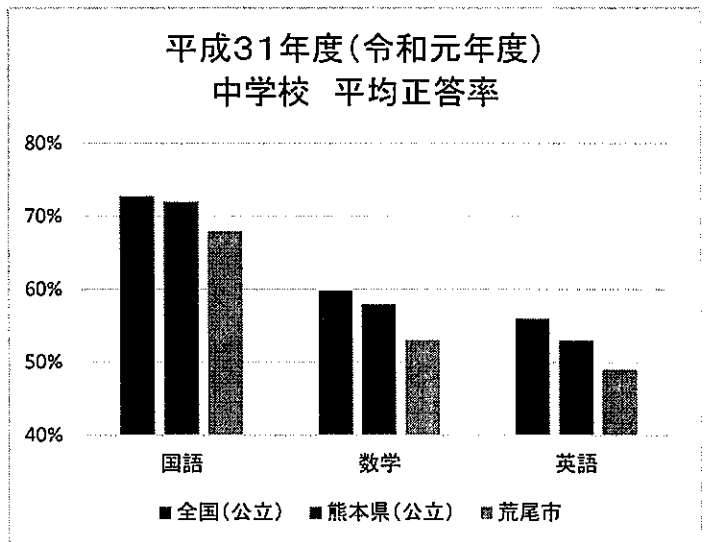
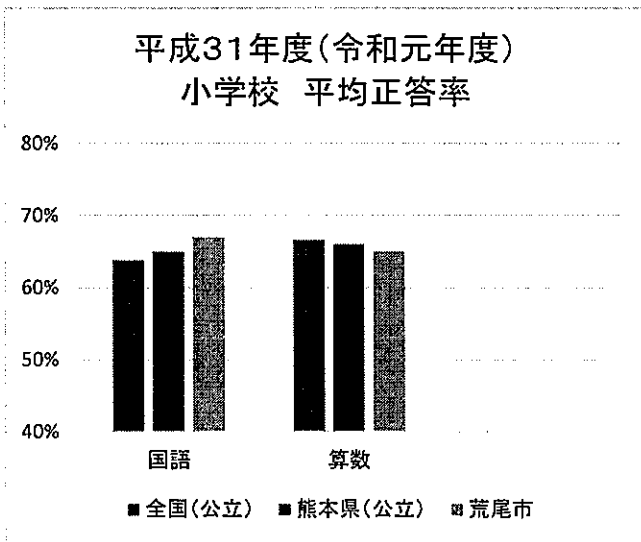
(参考) 令和元年度(平成31年度) 全国学力学習状況調査における全国・熊本県・荒尾市の平均正答率

○小学校

	国語	算数
全国(公立)	63.8%	66.6%
熊本県(公立)	65.0%	66.0%
荒尾市	67.0%	65.0%

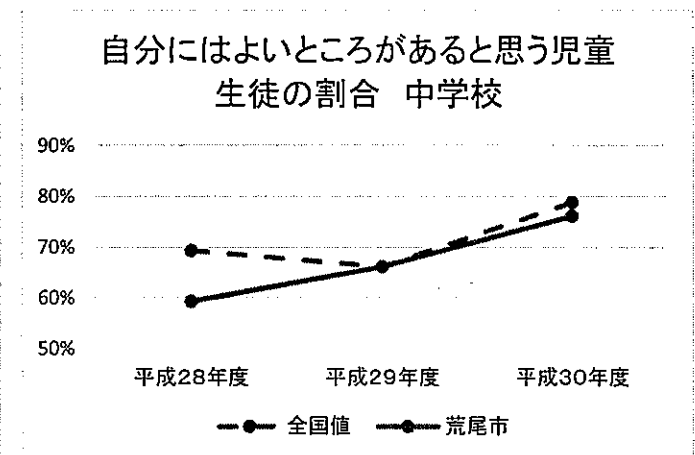
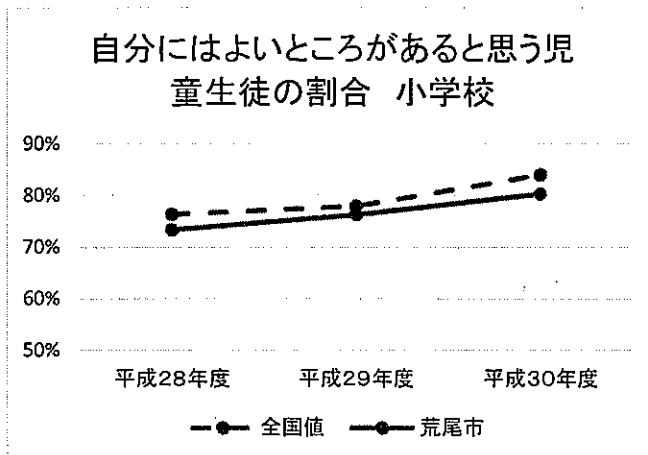
○中学校

	国語	数学	英語
全国(公立)	72.8%	59.8%	56.0%
熊本県(公立)	72.0%	58.0%	53.0%
荒尾市	68.0%	53.0%	49.0%



自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合

平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和3年度目標	
小学校	73.3% (全国値: 76.3%)	小学校	76.2% (全国値: 77.9%)	小学校	80.3% (全国値: 84.0%)	小学校	全国平均を上回る
中学校	59.3% (全国値: 69.3%)	中学校	66.10% (全国値: 66.1%)	中学校	76.1% (全国値: 78.8%)	中学校	全国平均を上回る

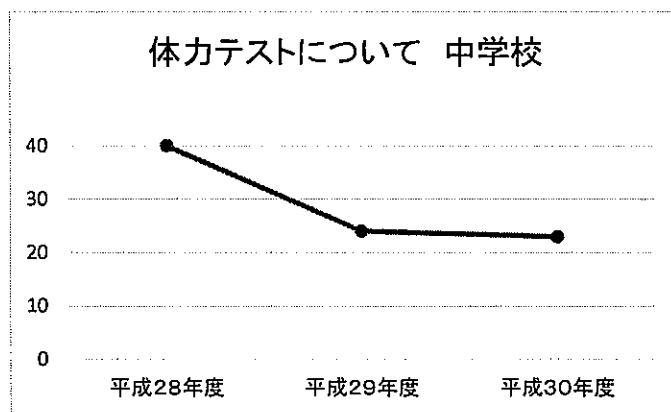
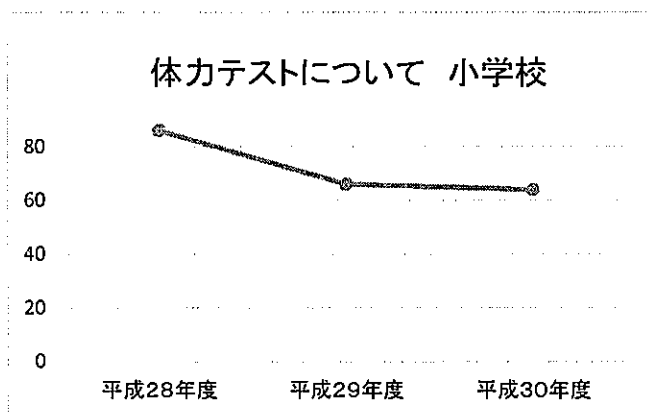


学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合

平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和3年度目標	
小学校	83%	小学校	86%	小学校	データなし	小学校	95%
中学校	81.4%	中学校	75.2%	中学校	データなし	中学校	90%

体力テストについて

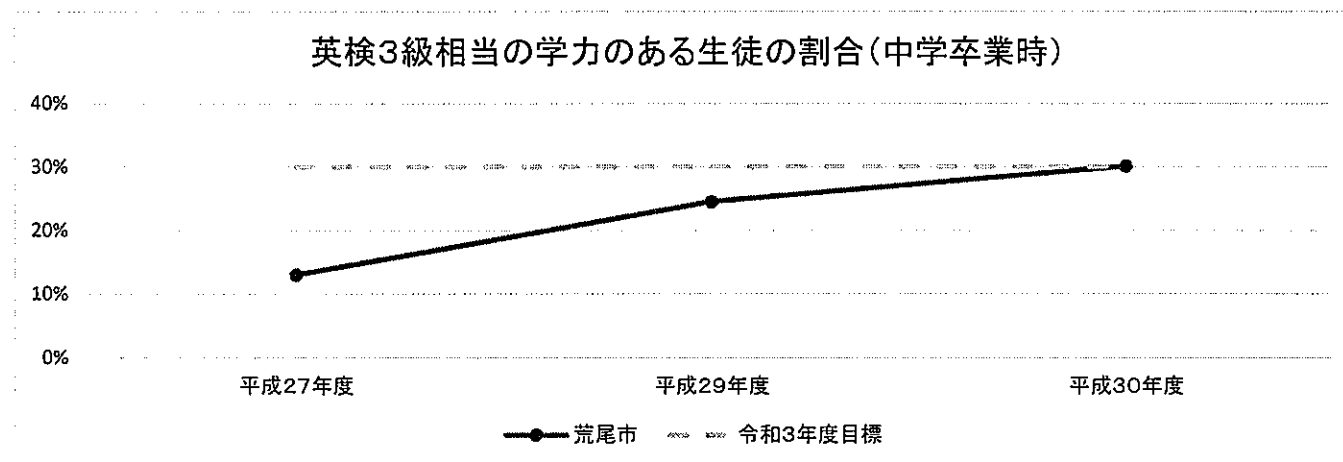
平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和3年度目標	
小学校	86/96項目で 県平均を上回る	小学校	66/96項目で 県平均を上回る	小学校	64/96項目で 県平均を上回る	小学校	全項目で 県平均を上回る
中学校	40/48項目で 県平均を上回る	中学校	24/48項目で 県平均を上回る	中学校	23/48項目で 県平均を上回る	中学校	全項目で 県平均を上回る



英検3級相当の学力のある生徒の割合（中学卒業時）

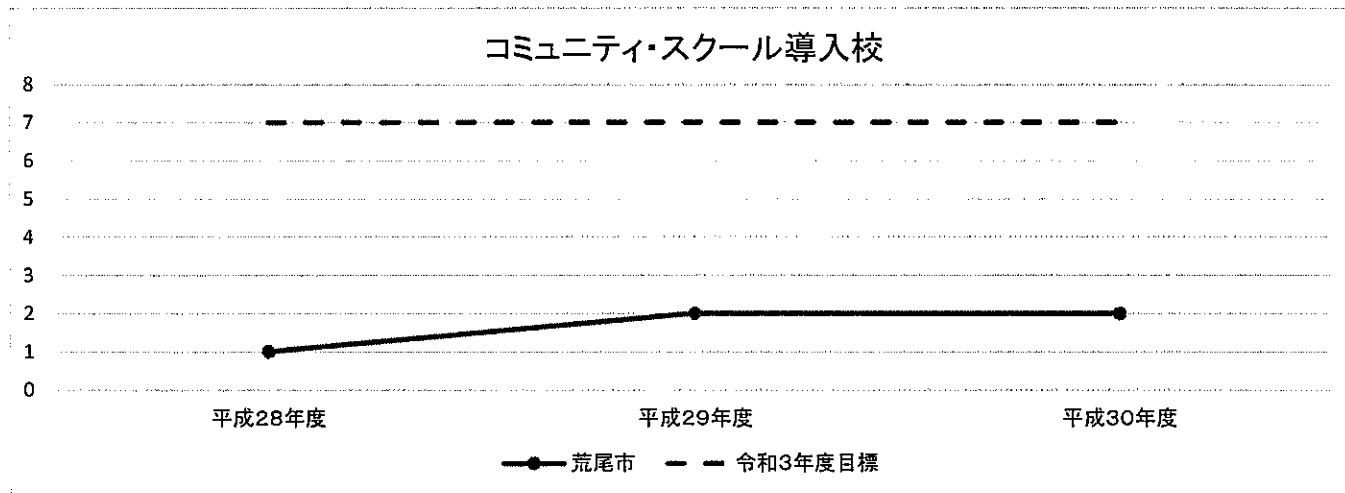
平成27年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
13%	24.5%	30.1%	30.0%

平成29・30年度は、IBAでの数値、令和元年度より、学校アンケート結果



コミュニティ・スクール導入校

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
1校	2校	2校	7校



<主な課題>

- ・メディア使用の時間が、全体的に他自治体と比較して長い傾向があり、特に中学生の3時間以上が20%もある。
- ・宿題・予習・復習を含めて、計画的な家庭学習ができている割合は、全体の6割程度であり、取り組めていない児童生徒も1割いる。
- ・学力向上のためのあらおベーシックの定着と英語力の向上（英語の日常化）

【概評】

学力において、小学校段階では全国水準に達しているものの中学校段階で水準以下になっている原因の多くは日頃の授業にあると思われる。例えば、英語において、英検3級相当の学力がある生徒が増えているにもかかわらず、全国学力学習状況調の結果として思うような成績を上げていない。要因として、英検に対する補助事業等の効果が表れている半面、英語嫌いを生み、英語への関心の二極化が懸念される。体力においても同じことが言えるであろう。したがって、学力・体力等を含め、より多くの生徒が関心を持ち参加するような授業体制が求められる。

基本目標③：生涯にわたって健やかに学び続ける人をはぐくみ、地域社会における教育力の向上をはかる

<総括>

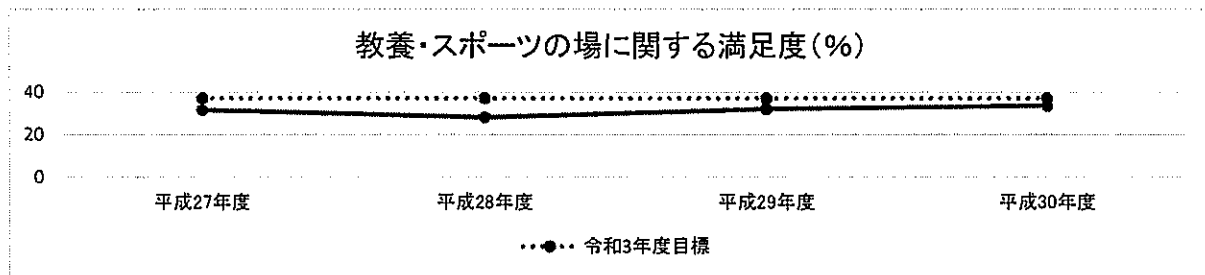
中央公民館・市立図書館・運動公園施設を拠点として、様々な取組を展開していること多くの市民が生涯学習・生涯スポーツ活動に取り組むことができ、教養・スポーツの場に関する満足度については、年々目標に近づいている。  
また、学校と地域の連携・協働の取組も市内全体に広がっており、多くの地域ボランティアの協力により、年々活動内容が充実している。

<主な取組>

- ・生涯学習の推進(公民館・図書館を活用した各種サービスの実施、サークル・団体の支援、各種イベントの開催等)
- ・生涯スポーツの推進(体育施設を活用した大会等の実施、協会・団体の支援、各種イベント・教室の開催等)
- ・学校、家庭、地域連携の強化(地域学校協働活動、放課後子ども教室、地域未来塾)

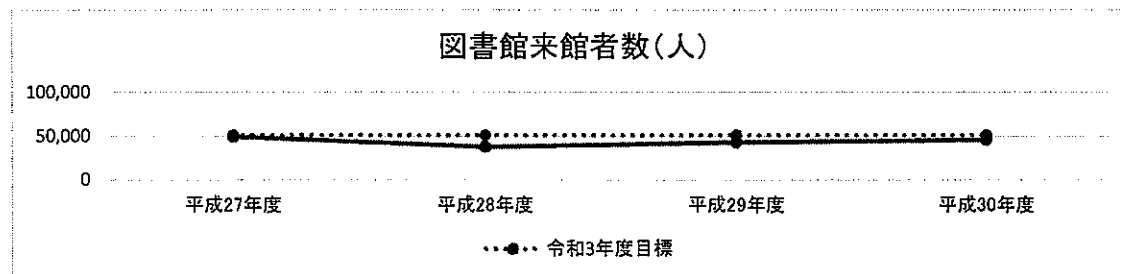
教養・スポーツの場に関する満足度(%)

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
31.5	28	32	33.5	37



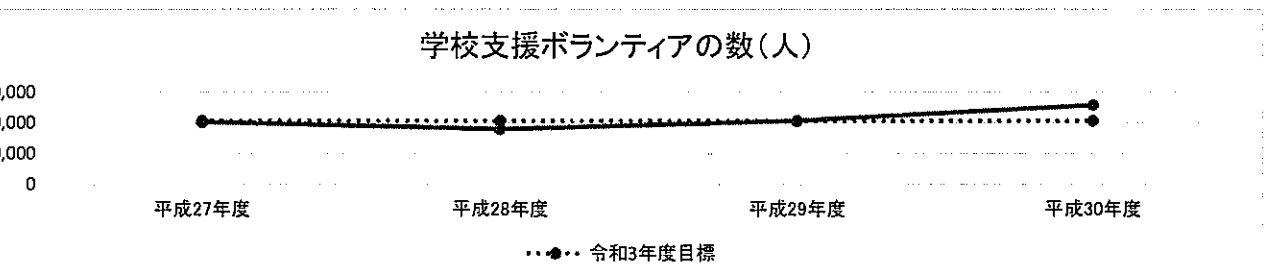
図書館の来館者数(人)

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
49,139	37,568	42,630	45,311	50,830



学校支援ボランティアの数(人)

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
20,194	17,882	20,580	25,667	20,600

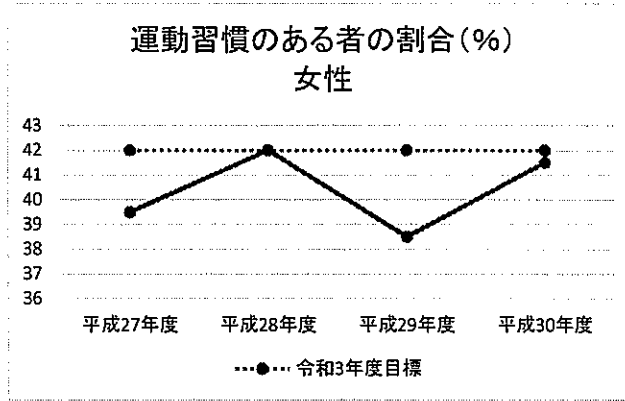
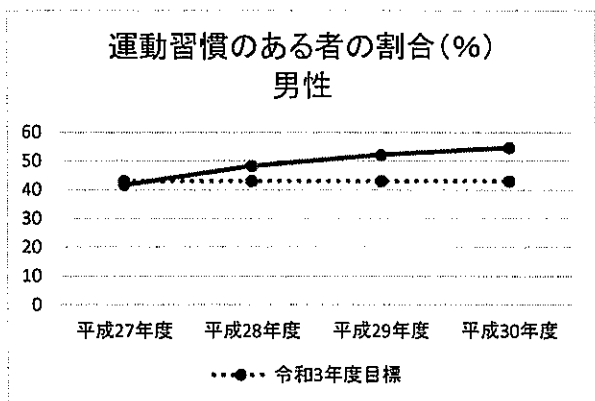


運動習慣のある者の割合 (%)

【男性】

【女性】

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
割合 (%)	48.2	52.1	54.6	43	39.5	42	38.5	41.5	42



<主な課題>

- ・生涯学習・スポーツ活動の拠点となる施設の老朽化。
- ・学校、家庭、地域連携の取組拡大に伴い将来を見据えた新たな人材の発掘や育成。
- ・運動習慣の向上に向けた、機会の創出・提供。

【概評】

調査結果を「割合」で表した場合、市民の健康への関心の度合いを測ることは不可能である。つまり、ここで求められるのは、それまで関心のなかった人があることをきっかけに関心を持ち実行したかである。そのためには、個人変容（つまり、Aさん個人の変化）を調べることにより、どのような取り組みが効果的であったかが分かりやすい。変容としては、無関心→関心を持つ→実行に移すというどの段階にあるかを把握し、より上位の段階に移行していくか、その要因が分かれば取り組みの評価も明確になると思われる。



基本目標④：ふるさとの自然や伝統、文化を学び、誇りや愛着をもち、文化を通じた国際交流の推進をはかる

＜総括＞

市史講演会や出前講座等を通して、本市の伝統文化を学ぶ機会を市民に広く周知し、「郷土を愛する心」を育んだ。また平成30年度は次世代を担う子ども達が主体で行う「くまもと子ども芸術祭」を実施し、子どもたちが文化・芸術に触れたことで、本市の文化振興に繋がった。宮崎兄弟を通じた視察や事業等を行うことで、国際交流の推進を行った。

＜主な取組＞

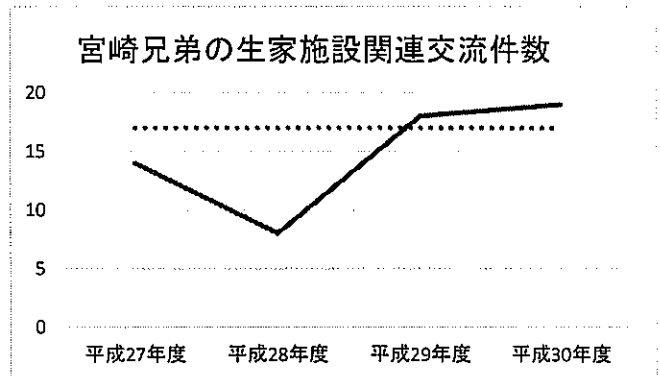
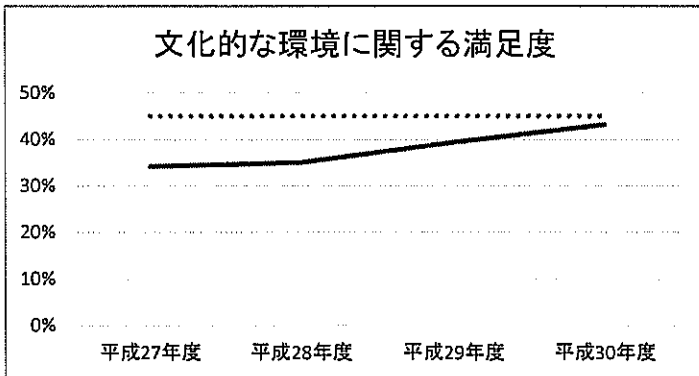
- ・指定文化財の補修を随時実施している。万田坑に関しては、長期的な整備・補修を計画している。
- ・市史等の講演会や出前講座等の実施。
- ・例年の市民文化祭に加え、昨年度はくまもと子ども芸術祭を実施した。
- ・宮崎兄弟に関する研究をまとめ、その歴史的価値を再評価するための宮崎兄弟研究報告書を発刊した。
- ・NHKと共催で「新・BS日本のうた」を文化センターで開催した。
- ・シンガポール晩晴園と共同報告書発刊について協議を重ねた。
- ・日中友好促進会議の事業として、伊藤伝衛門邸等を視察した。

文化的な環境に関する満足度

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
34.2%	35.0%	39.3%	43.1%	45.0%

宮崎兄弟の生家施設関連交流件数

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
14件	8件	18件	19件	17件



＜主な課題＞

- ・文化財保護及び文化団体の高齢化により、後継者不足が危ぶまれる。
- ・市民の国際交流への参加機会を増やすことができるよう、市内の国際交流団体等の意見を踏まえ、次世代を担う子ども達などの交流機会の拡充に向けた取組みの検討を行う必要がある。
- ・本市とシンガポール晩晴園との交流事業について、晩晴園と引き続き協議を重ね、学術交流を主軸とした提携から、多様な交流を視野に入れた国際交流を推進できるよう具体的な協議を行っていく必要がある。

【概評】

満足度調査は何を基準とするかにより変化するため、実態とのずれが大きいことも念頭に置くべきである。そこで、例えば各自の昨年度における満足度を基本として、今年度はどうであったか。向上した、変わらない、劣っていたなどの質問にすれば、全体的な傾向がつかめるのではないかと。特に、郷土が誇る宮崎兄弟を例に、取り組みの方向性や方法についての市民からの評価等は分かりやすい指標と言える。

## 教育振興基本計画に基づく平成30年度数値目標報告書に対する概評

事務点検評価委員：宮辺 博幸

基本目標①：家庭や地域の絆の中で、「生きる力」の基礎をはぐくむ

### <総括>

「くまもと親の学び」をはじめ、「荒尾っ子の『できるといいね』」等を活用しつつ、家庭教育の重要性についての啓発と支援に努めた結果、成果指標である「朝食を毎日食べている児童生徒の割合」が増加しました。今後も、基本的な生活習慣を育成できるよう周知啓発などを継続的に取り組んでいきます。

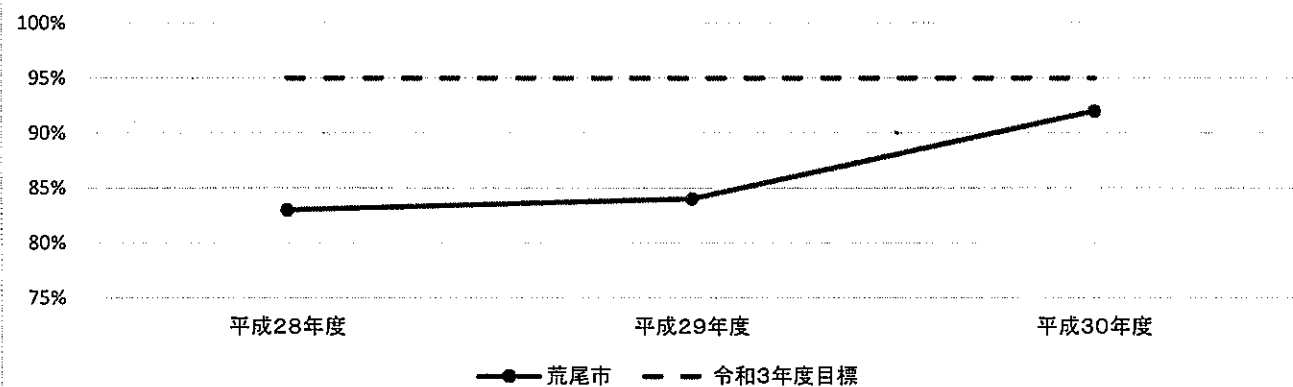
### <主な取組>

- ・基本的な生活習慣を育成するため、家庭教育支援リーフレット「荒尾っ子のできるといいね」の普及啓発
- ・「早寝早起き朝ごはん」運動の推進
- ・乳幼児期からの読み聞かせに努め、家庭教育に対する理解と充実を図るため「くまもと親の学び」の活用

朝食を毎日食べている児童生徒の割合

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
83%	84%	92%	95%

朝食を毎日食べている児童生徒の割合



### <主な課題>

・家庭環境など様々な事情により、子どもたちの食生活などの基本的な生活習慣の乱れが、学習意欲の低下、気力低下の要因の一つとなっている。

### 【概評】

「くまもと親の学び」、「荒尾っ子の『できるといいね』」の活用による家庭教育の啓発と支援に努められた結果、今年度は「朝食を毎日食べている児童生徒の割合」が大幅に増加し、目標値に近づいています。今後とも基本的な生活習慣改善のための周知啓発に取り組まれ、目標値の達成を目指していただきたい。

基本目標②：自ら学び、自ら考え、自ら行動する力をはぐくむ

＜総括＞  
 ・前年度と比較してよくなっている点（水準維持を含む）は、学力学習状況調査の小学校、中学生の英検3級相当の学力の生徒の割合です。課題となるのは、学力学習状況調査の中学校は、前年度に引き続き全国平均を下回っている、「自己肯定感」に関して、前年度（H29）の水準を上回る回答になっているが、全国平均からすると荒尾の児童生徒はやや下回る結果であること、体力に関して、小中学校ともに県平均を上回る項目が微減であることです。よくなっている点については今後もこの水準を維持できるよう努め、課題に関しては、学校による分析と対策の実施について、学校と連携しながら、取り組んでいきます。

＜主な取組＞  
 ・「メディアコントロール」の取り組み（インターネット等のメディア使用時間調査・情報モラル教育など）  
 ・教職員の指導力の向上を図るための「授業改善アドバイザー」事業の実施  
 ・「荒尾市教育ICT整備計画」の策定  
 ・中学校の全学年での「英検チャレンジ」実施  
 ・市内全中学校3校の普通教室等に空調設備の設置及び市内全小学校10校の空調設備設計委託の実施

全国学力・学習状況調査正答率

平成27年度		平成29年度		平成30年度		令和3年度目標	
小学校	全国平均を上回る	小学校	全国平均を上回る	小学校	全国平均を下回る	小学校	全国平均を上回る
中学校	全国平均を下回る	中学校	全国平均を下回る	中学校	全国平均を下回る	中学校	全国平均を上回る

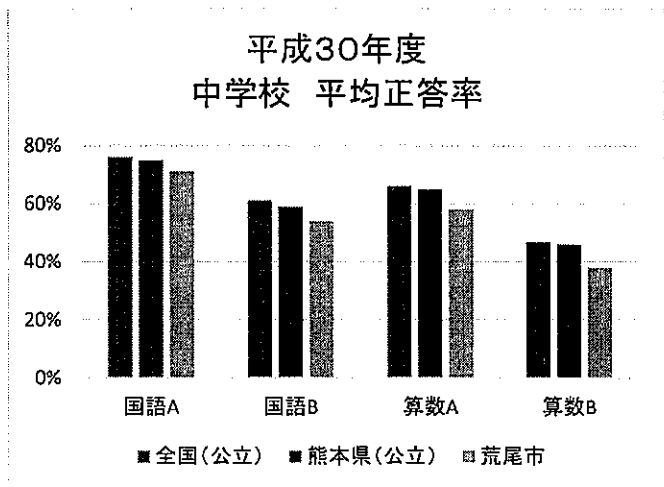
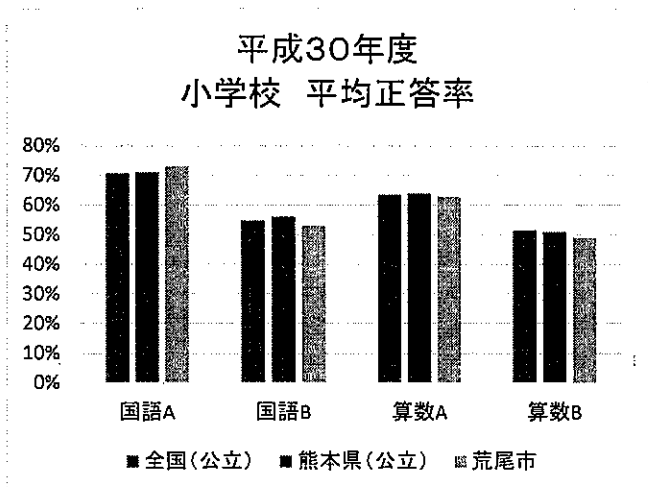
(参考)平成30年度 全国学力学習状況調査における全国・熊本県・荒尾市の平均正答率

○小学校

	国語A	国語B	算数A	算数B
全国(公立)	70.7%	54.7%	63.5%	51.5%
熊本県(公立)	71.0%	56.0%	64.0%	51.0%
荒尾市	73.0%	53.0%	63.0%	49.0%

○中学校

	国語A	国語B	数学A	数学B
全国(公立)	76.1%	61.2%	66.1%	46.9%
熊本県(公立)	75.0%	59.0%	65.0%	46.0%
荒尾市	71.0%	54.0%	58.0%	38.0%



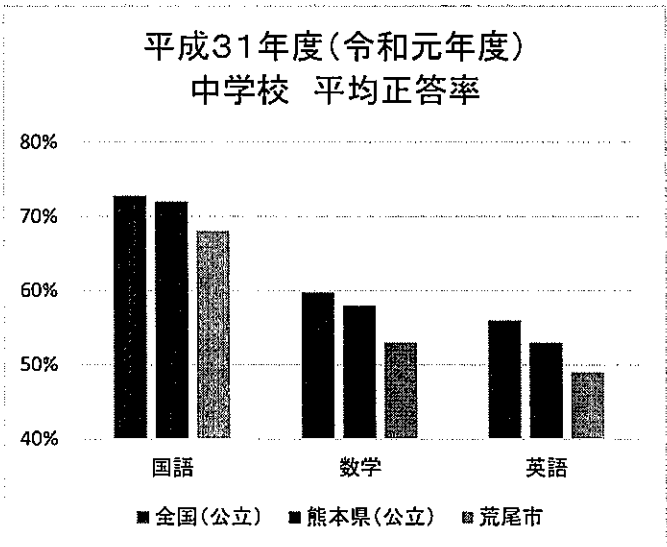
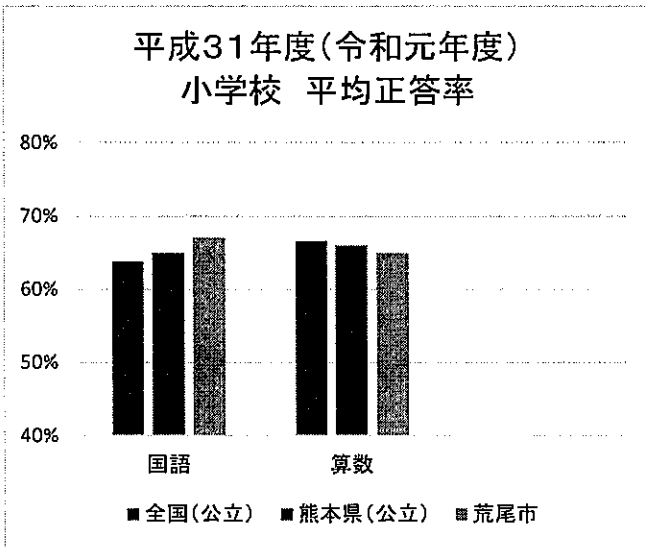
(参考)令和元年度(平成31年度) 全国学力学習状況調査における全国・熊本県・荒尾市の平均正答率

○小学校

	国語	算数
全国(公立)	63.8%	66.6%
熊本県(公立)	65.0%	66.0%
荒尾市	67.0%	65.0%

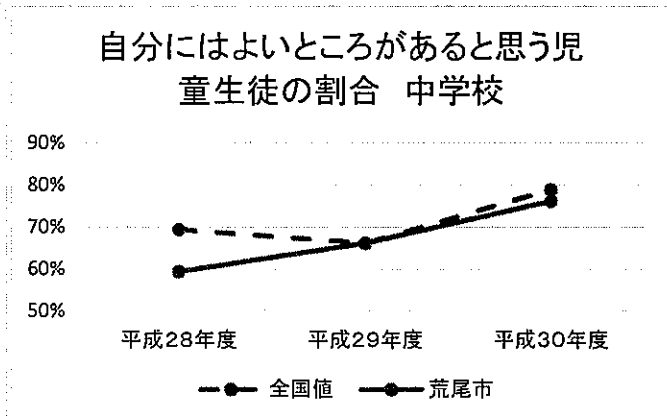
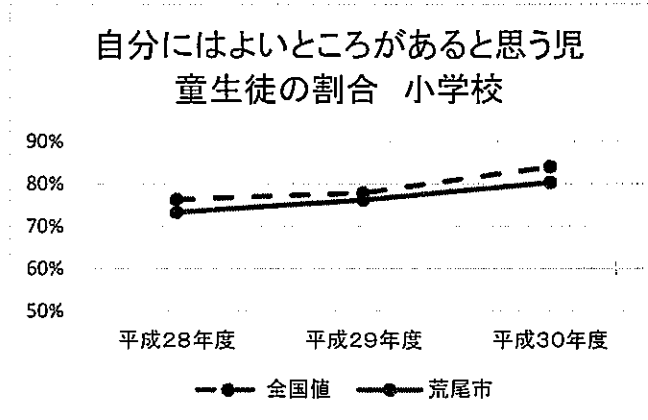
○中学校

	国語	数学	英語
全国(公立)	72.8%	59.8%	56.0%
熊本県(公立)	72.0%	58.0%	53.0%
荒尾市	68.0%	53.0%	49.0%



自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合

平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和3年度目標	
小学校	73.3%	小学校	76.2%	小学校	80.3%	小学校	全国平均を上回る
	(全国値:76.3%)		(全国値:77.9%)		(全国値:84.0%)		
中学校	59.3%	中学校	66.10%	中学校	76.1%	中学校	全国平均を上回る
	(全国値:69.3%)		(全国値:66.1%)		(全国値:78.8%)		

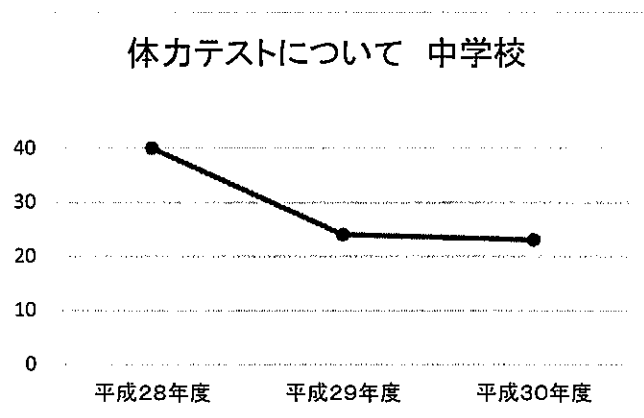
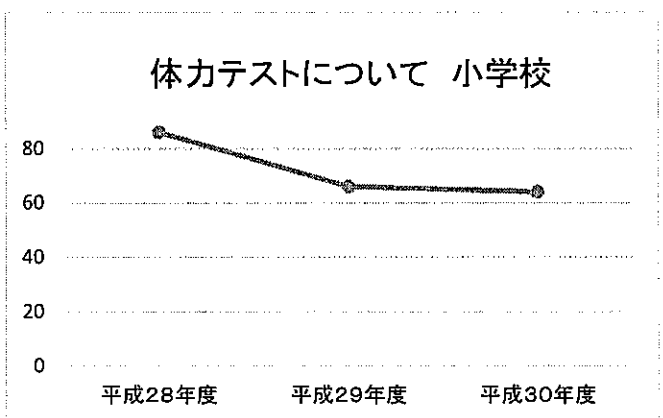


学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合

平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和3年度目標	
小学校	83%	小学校	86%	小学校	データなし	小学校	95%
中学校	81.4%	中学校	75.2%	中学校	データなし	中学校	90%

体カテストについて

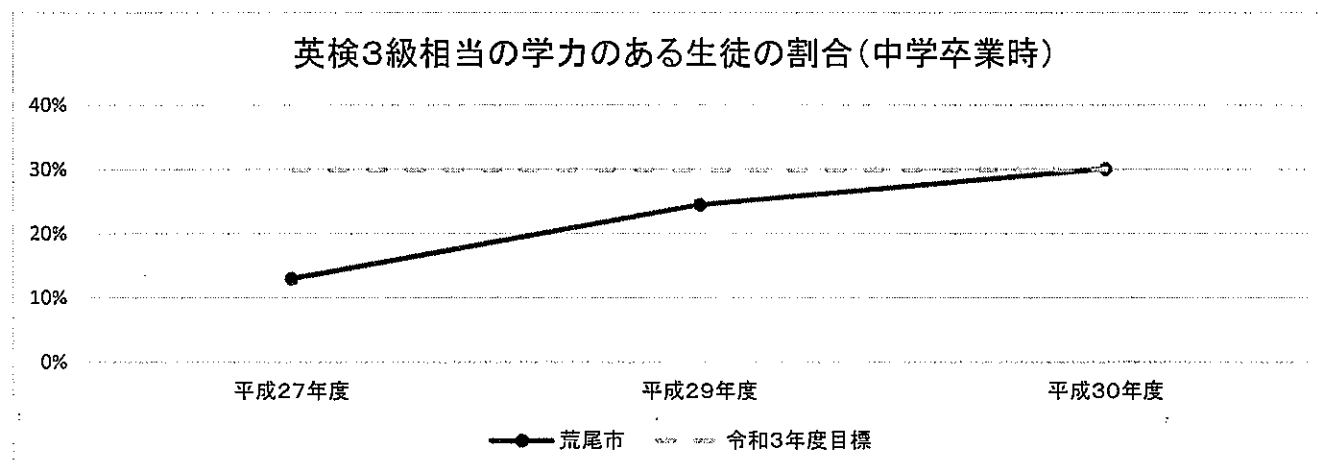
平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和3年度目標	
小学校	86/96項目で 県平均を上回る	小学校	66/96項目で 県平均を上回る	小学校	64/96項目で 県平均を上回る	小学校	全項目で 県平均を上回る
中学校	40/48項目で 県平均を上回る	中学校	24/48項目で 県平均を上回る	中学校	23/48項目で 県平均を上回る	中学校	全項目で 県平均を上回る



英検3級相当の学力のある生徒の割合(中学卒業時)

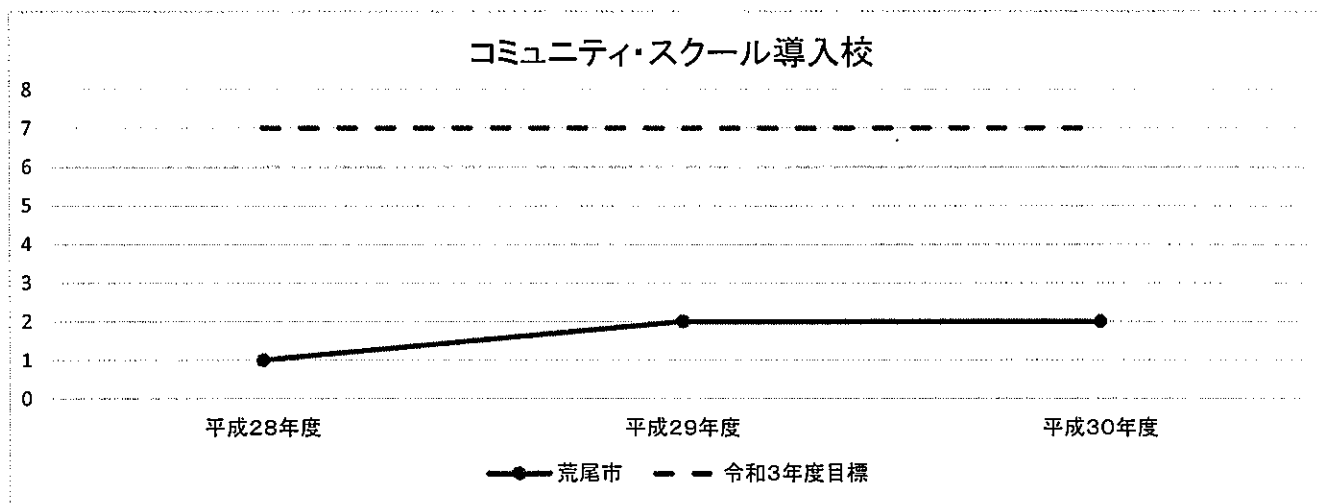
平成27年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
13%	24.5%	30.1%	30.0%

平成29・30年度は、IBAでの数値、令和元年度より、学校アンケート結果



コミュニティ・スクール導入校

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
1校	2校	2校	7校



<主な課題>

- ・メディア使用の時間が、全体的に他自治体と比較して長い傾向があり、特に中学生の3時間以上が20%もある。
- ・宿題・予習・復習を含めて、計画的な家庭学習ができている割合は、全体の6割程度であり、取り組めていない児童生徒も1割いる。
- ・学力向上のためのあらおベーシックの定着と英語力の向上（英語の日常化）

【概評】

「英検チャレンジ」を全学年に広げたことにより、英検3級相当の学力のある生徒の割合が大幅に増え、目標値に達している。今後もこの水準を維持できるよう取り組みを続けていただきたい。  
 学力、学習状況調査、自己肯定調査で全国を下回り、体力テストでも県平均を上回る項目が微減している。目標達成に向け、学校と連携しながら、現在取り組んでいる事業等の充実により目標達成に努めていただきたい。コミュニティ・スクールの導入においても、昨年より1校増えたもののまだ目標に程遠い。学校、地域との連携を密にし、導入に取り組まれたい。

基本目標③：生涯にわたって健やかに学び続ける人をはぐくみ、地域社会における教育力の向上をはかる

<総括>

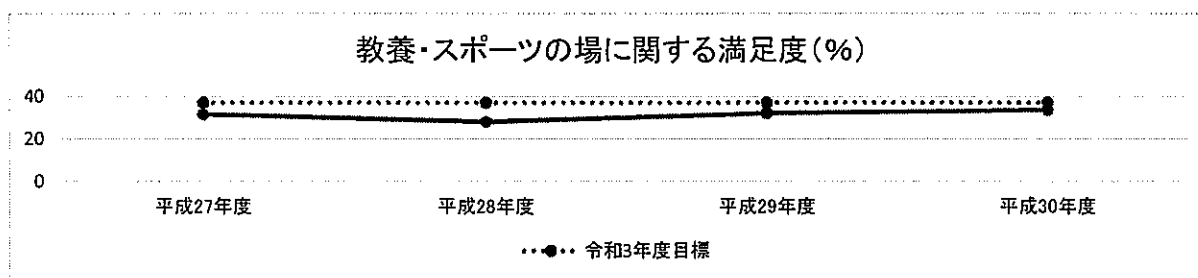
中央公民館・市立図書館・運動公園施設を拠点として、様々な取組を展開していること多くの市民が生涯学習・生涯スポーツ活動に取り組むことができ、教養・スポーツの場に関する満足度については、年々目標に近づいている。  
また、学校と地域の連携・協働の取組も市内全体に広がっており、多くの地域ボランティアの協力により、年々活動内容が充実している。

<主な取組>

- ・生涯学習の推進（公民館・図書館を活用した各種サービスの実施、サークル・団体の支援、各種イベントの開催等）
- ・生涯スポーツの推進（体育施設を活用した大会等の実施、協会・団体の支援、各種イベント・教室の開催等）
- ・学校、家庭、地域連携の強化（地域学校協働活動、放課後子ども教室、地域未来塾）

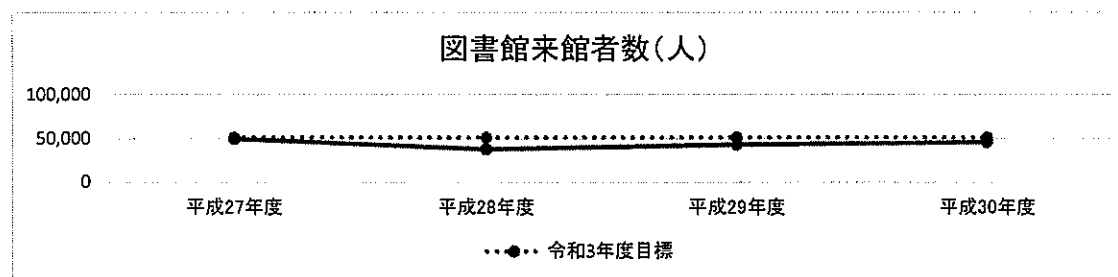
教養・スポーツの場に関する満足度(%)

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
31.5	28	32	33.5	37



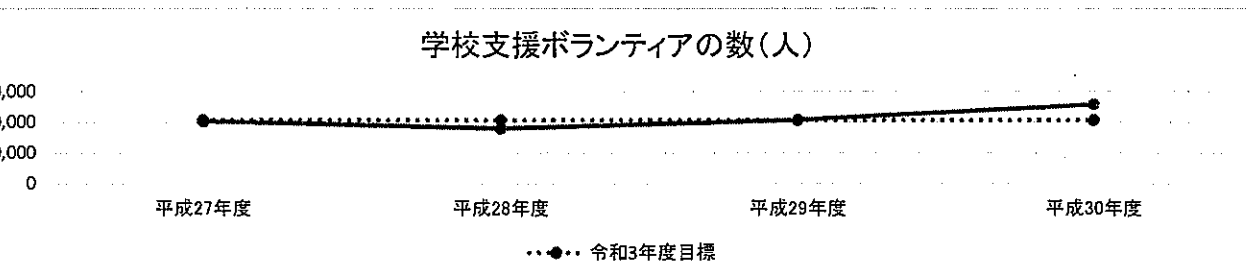
図書館の来館者数(人)

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
49,139	37,568	42,630	45,311	50,830



学校支援ボランティアの数(人)

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
20,194	17,882	20,580	25,667	20,600

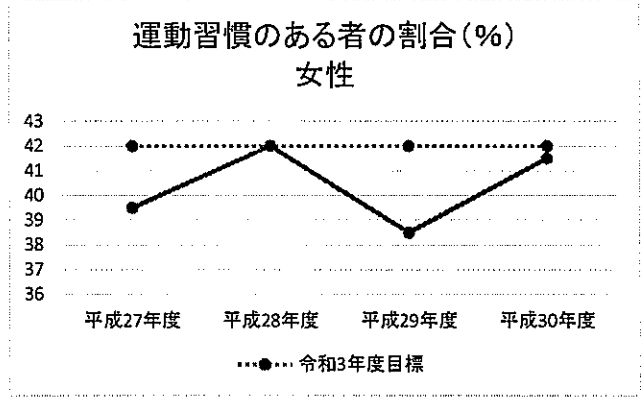
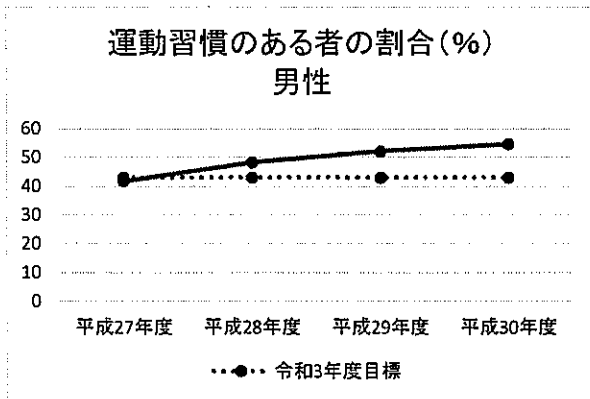


運動習慣のある者の割合(%)

【男性】

【女性】

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
割合(%)	48.2	52.1	54.6	43	39.5	42	38.5	41.5	42



- <主な課題>
- ・生涯学習・スポーツ活動の拠点となる施設の老朽化。
  - ・学校、家庭、地域連携の取組拡大に伴い将来を見据えた新たな人材の発掘や育成。
  - ・運動習慣の向上に向けた、機会の創出・提供。

【概評】

生涯学習、生涯スポーツへの取り組みの成果として、市民の教養・スポーツの場に関する満足度は徐々にではあるが上がってきている。拠点施設の老朽化への対応に心がけながら市民の満足度アップに繋げていただきたい。また、図書館来館者数も読書活動推進のための取り組みの充実により確実に増えてきている。地域における学校教育への意識が高まり、学校支援ボランティアの数も目標値を大きく上回っている。今後も人材の確保、育成のための取り組みを続けられたい。運動習慣のある男性の割合は目標値を大幅に上回り、女性も目標に近づきつつある。さらに、地域スポーツ、生涯スポーツの推進により運動の機会の創出、提供に努められたい。



**基本目標④：ふるさとの自然や伝統、文化を学び、誇りや愛着をもち、文化を通じた国際交流の推進をはかる**

**<総括>**

市史講演会や出前講座等を通して、本市の伝統文化を学ぶ機会を市民に広く周知し、「郷土を愛する心」を育んだ。また平成30年度は次世代を担う子ども達が主体で行う「くまもと子ども芸術祭」を実施し、子どもたちが文化・芸術に触れたことで、本市の文化振興に繋がった。宮崎兄弟を通じた視察や事業等を行うことで、国際交流の推進を行った。

**<主な取組>**

- ・指定文化財の補修を随時実施している。万田坑に関しては、長期的な整備・補修を計画している。
- ・市史等の講演会や出前講座等の実施。
- ・例年の市民文化祭に加え、昨年度はくまもと子ども芸術祭を実施した。
- ・宮崎兄弟に関する研究をまとめ、その歴史的価値を再評価するための宮崎兄弟研究報告書を発刊した。
- ・NHKと共催で「新・BS日本のうた」を文化センターで開催した。
- ・シンガポール晩晴園と共同報告書発刊について協議を重ねた。
- ・日中友好促進会議の事業として、伊藤伝衛門邸等を視察した。

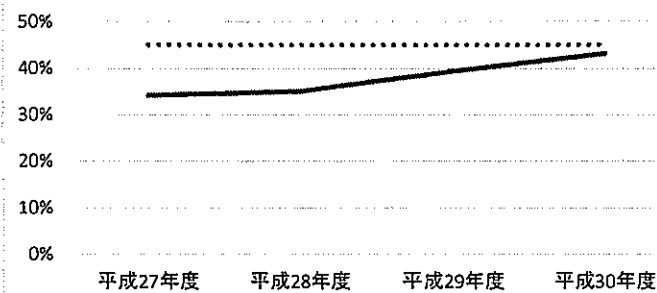
**文化的な環境に関する満足度**

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
34.2%	35.0%	39.3%	43.1%	45.0%

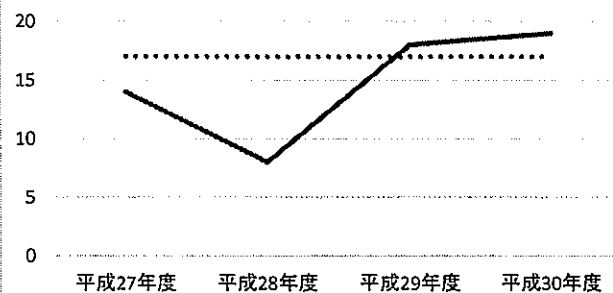
**宮崎兄弟の生家施設関連交流件数**

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和3年度目標
14件	8件	18件	19件	17件

**文化的な環境に関する満足度**



**宮崎兄弟の生家施設関連交流件数**



**<主な課題>**

- ・文化財保護及び文化団体の高齢化により、後継者不足が危ぶまれる。
- ・市民の国際交流への参加機会を増やすことができるよう、市内の国際交流団体等の意見を踏まえ、次世代を担う子ども達などの交流機会の拡充に向けた取組みの検討を行う必要がある。
- ・本市とシンガポール晩晴園との交流事業について、晩晴園と引き続き協議を重ね、学术交流を主軸とした提携から、多様な交流を視野に入れた国際交流を推進できるよう具体的な協議を行っていく必要がある。

**【概評】**

**<総括>**

市史講演会や出前講座等の実施により、本市の伝統文化を学ぶ機会を市民に広く周知したことで、文化的な環境に関する満足度は確実に高まっている。今後も周知、啓発を続け、目標値の達成に繋げていただきたい。宮崎兄弟の生家施設関連交流件数についても目標以上の成果が上がっている。今後の施策に期待したい。